

◆量的調査の集計と分析

24 推定と検定

推定……標本の統計量から母数を予想すること。
 検定……調査の結果が母集団においても認められるかどうかを、統計的仮説の成否によって検討すること。

否定されることで、調査者の正しいと考えていることの立証を試みるための仮説で、否定されることが期待される仮説のことを帰無仮説という。
 一定の手続きによって帰無仮説を棄却できるかどうかを判断する基準を有意水準という。

25 帰無仮説と有意水準

帰無仮説の棄却または採択において、判断を誤る可能性が2通り考えられる。一つは帰無仮説が正しいにもかかわらず棄却してしまう誤りであり、これを第1種の過誤という。もう一つは、帰無仮説が誤っているのに採択してしまう誤りであり、第2種の過誤という。

26 第1種の過誤と第2種の過誤

帰無仮説の棄却または採択において、判断を誤る可能性が2通り考えられる。一つは帰無仮説が正しいにもかかわらず棄却してしまう誤りであり、これを第1種の過誤という。もう一つは、帰無仮説が誤っているのに採択してしまう誤りであり、第2種の過誤という。

27 独立変数と従属変数

社会調査において原因と結果の検討を行う場合、独立変数は原因（影響を与える）、従属変数は結果（影響を受ける）を表す。また、独立変数を「説明変数」、従属変数を「被説明変数」「目的変数」ともいう。

28 度数分布表

変数の各値が出現する頻度（度数）を表にしたものを度数分布表という。

29 2変数間の分析

2変数間の分析は、データの種類の種類や分析の目的に合わせて、方法を選ぶ必要がある。クロス集計表（カイ2乗検定）、t検定（平均値の差の検定）、ピアソンの積率相関係数、一元配置分散分析などがある

30 多変量解析

3変数以上を同時に分析する統計分析の方法のことを総称している。三重クロス集計（エラゴレーション）や対数線形モデル、重回帰分析、パス解析、ロジスティック回帰分析、因子分析、クラスター分析などがあり、データの種類や目的に合わせて、適切な方法を選ぶ

量的調査の集計と分析

アフターコーディング	調査票を回収した後、自由記述の回答を一定の基準により分類し、分類したカテゴリごとに特定の記号を付与すること
単純集計	「1つ」の変数を集計・分析し、変数の分布を明らかにする
クロス集計	「2つ以上」の変数に着目し、集計・分析を行い、変数間の関連性を推察する
記述統計	収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算して分布を明らかにし、データの示す傾向や性質を把握する方法
推計統計	集団の一部のデータから集団全体の特徴や傾向を明らかにする手法
カイ2乗統計量	2つの変数が独立であるとした場合の期待度数からなる表と、実際の観測度数からなる表の間の全体的なズレを表す（観測度数と期待度数のずれを数値にする）
クロソニックのα係数	複数の測定項目間内的整合性があるかどうかを調べるために用いられる

◆質問紙の作成方法と留意点

20 調査票作成における留意点

質問紙の言葉遣い（ワーディング）については、次のことに留意する必要がある。

- ①ダブルバレル質問（1つの文に複数の質問を含む質問）は、回答者がどちらに答えていいかわからないため、避けるべきでない。
- ②専門用語や職業語を使用すると、回答者が一般の人の場合などは質問の意味が理解できないことがあるため、注意が必要である。
- ③否定語やハイアスの含まれる用語、ステレオタイプ化した用語を質問項目に使用すると、回答を誘導する可能性があり、注意が必要である。
- ④質問の配列によっては、キャリアオーバー効果（直前の質問が後の質問の回答に影響を与えること）が起きる可能性があり、注意が必要である。
- ⑤イエス・テンデンスは、どのような質問に対しても「はい」などの肯定的な回答をしようとする傾向のことである。質問の順序が逆になる「逆戻り目」を設けるなどの工夫が必要である。
- ⑥定義のあいまいな用語や表現を使用すると、回答者によって想定する回答が異なる可能性があるため、避けるべきでない。

21 フレコーディングとアフターコーディング

選択肢のように事前にコードをつけておくことをフレコーディング、自由記述などの回答にあらかじめコードをつけることをアフターコーディングという。

22 事前調査（プリテスト）

本調査に移る前の予備調査のことをいう。調査票や設問に不備はないかを確認することが目的である。

◆調査票の配布と回収

23 調査の方法

方法	内容	メリット	デメリット
郵送調査	調査票の配布・回収を郵送によって行う方法	対象者が広範囲の場合に有効	回収率が低い
配票調査	調査員を通じて、調査票の配布・回収を行う方法で、留置法ともいう	回収率が比較的高い	調査費用が高い
個別面接調査	調査員が質問して回答を調査票に記入する方法	回収率が比較的高い、無回答などの回答ミスが少ない	調査費用が高い
集合調査	調査対象者に会場で集まってもらい、一斉に調査票を配布・回収する方法	回収率が高い、短時間で実施可能	回答者に偏りが生じやすい
電話調査	調査対象者に電話をかけて質問し、調査員が調査票に記入する方法	短時間で実施できる、費用が抑えられる	拒否が多い

表3 調査の方法の種類